

# 議事録

## 令和4年度第1回とよた森づくり委員会

日時：令和4年7月8日（金）午後1時30分～5時00分

場所：豊田市役所南庁舎5階 南52会議室

出席者、資料：別紙

### （1）各委員自己紹介及び会長・副会長の選出

- 会長 横井 秀一
- 副会長 片桐 正博

### （2）「森づくり構想の成り立ちと森づくりの今後について」

東京大学大学院 蔵治 光一郎 教授

### （3）「第4次豊田市森づくり基本計画の取組方針について」

- 説明（資料1、2）（森林課井貝）
- 森林課杉本
  - ・ 地域材利用について補足があるので説明する。
  - ・ 地域材利用には、豊田市の森林にある木を木材として流通させるものと、豊田市産材というブランドで展開するという狭い意味での利用とあると思う。
  - ・ 豊田市の山にある森林を使うことは森林資源の有効活用や林業の振興につながり、森林整備に資するものであると言える。しかし、豊田市産材としては、市民の関心も低く、供給体制も整っておらず、流通量も少ない。
  - ・ 豊田市産材の利用が森林整備の促進にどれだけ寄与するのか位置づけが難しい。豊田市産材を利用した事業によって、山村地域の振興や地域の経済につなげることや森林の啓発等が直接的な効果ではないかと考えている。

#### <質疑応答>

- 質問（鈴木（辰）委員）
  - ・ 豊田市民は水道水源保全基金、あいち森と緑づくり税、そして令和6年度から森林環境税（1,000円/人・年）が徴収される。
  - ・ 森林環境税が開始され、さらに税金を払うのであれば、何か新しいことを実施してほしい

という感覚になる。

- ・ 森林環境税が開始されることにより、森林施策が大きく変わると考えていいのか、それとも、ただ既存の取組に充当するだけなのかを知りたい。

● 回答（森林課杉本）

- ・ 新規の取組があればそこに充当していくという考えを持っている。
- ・ 今後に向けて、新しい取組を打ち出していかなければならない段階と感じている。

● 質問（臼田委員）

- ・ 利用間伐について、間伐計画量は何に基づいて決めているのか。

● 回答（森林課井貝）

- ・ 団地化をする際に森林組合が現況を見るほか所有者の意向をもとに判断している。

● 質問（赤堀委員）

- ・ 利用間伐の人手が足りてない件について、担い手が少なくなっていることや離職率の高さ等の背景を知りたい。

● 回答（森林課井貝）

- ・ 全国的な数値だと約6割が離職していて、林野庁のアンケート結果によると、「給料が安いことによる将来の展望が見えない事や安全面での保障が低いため」が主な理由となっている。
- ・ 豊田森林組合においては、日給制から月給制にするなど、給料面では改善されている。次に目指す事としては、安全面を改善していくことで離職率の改善につなげていく考えである。

● 回答（片桐副会長）

- ・ 緑の雇用による採用者は少なからず辞める人がいる。しかし、全国的なレベルまで多いとは思っていない。森林組合では、独自に高校生を職員として雇い、岐阜県の林業大学校で勉強させ、その後、現場で働いてもらう仕組みを2年前から実施している。若い人が少なくなっていることについては、課題の解決に向けて取り組んでいる。

● 進行（横井会長）

- ・ これまで話した内容が重点1（間伐推進プロジェクト）と重点4（森づくり人材育成プロジェクト）に当たる話だったが、間伐のプロジェクト、地域材の生産・流通そして人材育成の3つに絞って問題点や取組について意見があればお聞きしたい。

● 意見（赤堀委員）

- ・ 市民の方が地域材に関心が薄いことについては同意見。
- ・ 問題として、そもそも地域の方が地域材を使おうとしたときに入手方法がない。
- ・ 今のところ地域材は家の場合にしか入手方法がないので、気軽に使えない。また、家だとリピートして利用できない。つまり、住宅を建てるという消費形態の中で、地域材にどれだけの人が興味を持つかということになり、ハードルが高い。
- ・ 地域材の利用拡大というところに焦点が行き過ぎており、もっと商品と接する機会を増やしていくことが大事だと考えられる。
- ・ 量を増やすことに繋がらないが、今後は市民の方が地域材にアクセスする機会を創出するために、市民の生活を豊かにするような先例を見つけ、リピートして利用してもらうことが重要となっていくのではないかと（例 ホームセンターに地域材を商品として取扱ってもらう等）。
- 意見（森林課杉本）
  - ・ ウッディーラー豊田を地域材利用に関する相談の窓口として一本化することと、ウッディーラー豊田を中心に地域材の供給体制を整えていくことが重要と考えている。
- 回答（樋口委員）
  - ・ 利用拡大について、地域材をどこで入手するか、森林整備にどれだけ寄与するかについて議論しているが、物事の測り方によって変わってくると思う。森づくりとウッディーラー豊田の目的は違う。
  - ・ 現在のウッディーラー豊田の状況としては、ようやくオリジナル商品が出来て流通体制も整ってきた。主に消費材、雑貨、イベント性の高いものを開発している。
  - ・ ホームセンターに地域材の営業を行ったが、全国で一括して仕入れをしており、地域材の取扱いは難しいとのことだった。
  - ・ 個人で地域材を使いたいという方もいる。どういう流通の形態がいいのかについてはそもそも別の場で議論をしないといけない。
- 意見（赤堀委員）
  - ・ 取組の方針の中に木材利用量の拡大を掲げている組織が多いが、地域材を利用する機会を創出するという視点に重点を置くと、樋口さんの取組について具体的な成果を上げられることに繋がるのではないかと考えている。
- 意見（森林課杉本）
  - ・ 地域材利用の目的については、量の拡大では無いと思っているので、今後考えていきたい。
- 意見（水嶋委員）

- ・ 地域材利用は量も大切だと思っている。椅子やベッドよりも、家で地域材を利用する際は  
何十倍もの量を使用しているため、利用量拡大自体も重要であり、本来の木材利用の家を  
見直すことは大切なことなのではないかと考えている。
- 質問（水嶋委員）
  - ・ ウッドショックにより、川下での木材の価格はほぼ倍になっている。これにより山側が潤  
っているか。また、山側が潤うことで、若者に魅力を感じてもらい、国産材や地域材の利  
用拡大につながらないのか。
- 回答（片桐副会長）
  - ・ ウッドショックによって、ヒノキの柱材等は値上がりしたため、山主にお返しする金額は  
かなり増加した。しかし、あくまで補助金ありきの金額である。
- 質問（横井会長）
  - ・ 委員の皆さんが、豊田市産材をどのように流通させていきたいのか、又はどういう視点の  
施策が必要と思われるか。
- 回答（鈴木（政）委員）
  - ・ 自身の自伐林業（3,300m<sup>3</sup>）については、自分のトラックで県森連の市場に持っていき、  
そこから一般の木材市場や西垣林業等に売っているが、ウッドショックによる恩恵はわず  
か。
- 質問（横井会長）
  - ・ 豊田市内に山林を所有して林業を営んでいる立場から、豊田市産材を利用して欲しいとい  
う気持ちになるようなものか。
- 回答（鈴木（政）委員）
  - ・ 昔は考えたりもしたが、買う人には地域材を使いたいという意識がなく、安ければ良いと  
いう印象なので難しいと考えている。
- 意見（鈴木（禎）委員）
  - ・ 私の地域はIターンの人が多く、若い人たちが木を使って家を改造したりしており、値段  
的なことはそこまで意識していない。
- 意見（西垣委員）
  - ・ 一般の住宅で木材の産地指定をもらうケースはほとんどない。
  - ・ 地域を代表する建築物（学校等）に地域材を使うことにより、森林整備の必要性を伝える  
という点で、地域材利用の意義はある。
  - ・ 流通の部分について、工務店は基本的にプレカットメーカーから調達するので、工務店が

らプレカットメーカーに地域材を強く要望してもらう必要がある。

● 進行（横井会長）

- ・ 別の話題について何か話したいことがある方はいるか。

● 質問（藤富委員）

- ・ 1つ目として、森づくり計画について、長い期間取り組んでいくことから、第3次計画の終わりまでに森林の状態や森林に関わる人がどうなっているべきなのか、続く第4次計画ではどういう状態になっているべきなのか、委員の間でイメージを共有し委員として計画の内容を確認していけるようにすることが重要ではないか。
- ・ 2つ目として、森づくりは自然が相手であることと、更には人や経済の状況が絡むことから、変化点が非常に多いと考えられるのでこれら変化点に注視しながら委員として議論を深掘りしていく必要があるのではないか。

● 回答（森林課杉本）

- ・ 構想や計画の構造として、構想の中で、基本理念に基づいて実施すべきことが書かれており、例えば理念4の人材育成については、森林作業員や森林施業プランナーの育成についてである。
- ・ これに基づき、第3次計画の中で具体的に何を実施するか書かれており、例えば豊田森林組合の新卒の職員を林業大学校に入学させ、専門的な知識を学ばせたりしている。
- ・ これらの実施状況について今回整理しており、手を付けていないものや、進捗が悪いものについて、構想に立ち返って、4次計画で見直していく。
- ・ 構想の中身を見直すという話であれば5年後に行う予定なので、それを見越して4次計画について準備をしていく必要があるとは思っている。

● 質問（藤富委員）

- ・ 資料の中身を確認していく上で、「どういう観点で森づくりを考えていけばよいのか、ということについて意見交換をすべきではないか」と感じております。この資料を見る上で、前提条件が共有されていないと、委員としての議論が難しいのではないか。

● 回答（森林課杉本）

- ・ その点でいうと皆さんの考えを出してもらって、それをふまえて4次計画をどうするのか議論し、4次計画を作りこんでいきたい。

● 意見（樋口委員）

- ・ 初回なので、委員それぞれの考えをお互い知っておくのは必要なことである。

- ・ 3次計画における原木消費量や素材生産量等の数字がある。これら具体的な数字をもとに、4次計画内容を考えていく必要があるのではないか。
- 意見（臼田委員）
  - ・ 現状の人工林を維持して、木材生産を進めていくのは、人や財源等の問題から困難である可能性がある。そのためにも、木材生産が可能な人工林を絞り込んでいく必要がある。
  - ・ 岐阜県では、木材生産林として利用していくことが困難な人工林を明らかにするために、その困難さを傾斜や道からの距離などに基づいて数値化した。これを基準として、各人工林の木材生産林としてのポテンシャルを客観的に明らかにした。そして、地域と相談しながら木材生産林を区分したところ、木材生産林は岐阜県内の私有林面積の3割となった。
  - ・ 数値データに基づいて、客観的に木材生産林を区分することにより、優先的に道をつけるところや、切置き間伐を中心に実施するところが明確になり、無理のない目標数値をもった計画になると考える。
- 意見（岡本委員）
  - ・ 臼田委員のような意識は重要で、地形や地質等により、各所有者の山が人工林としてどういう位置付けにあるのか、どう取扱っていくのか考えていくことが必要である。
- 質問（片桐副会長）
  - ・ 臼田委員の話の中で、私有林のうち3割を木材生産林にしたということだが、残りの7割の扱いをどのようにしているのかを教えてほしい。
- 回答（臼田委員）
  - ・ 7割の人工林は環境保全林に区分され、針広混交林などの目的に応じた森林へ誘導する予定。しかし誘導するための手法は試行錯誤中。間伐だけでは広葉樹の更新は難しいので、植栽も積極的にやっていくべきだと考える。
- 意見（横井会長）
  - ・ この針広混交林化について、豊田市の構想に書かれており、全国的にもこの傾向がある。しかし根拠やエビデンスがない。本来、針広混交林は高木層で混交林になっているものであるが、高木を育てるとなると、その木が育つ空間が必要であり、山をかなり壊さないといけない。無理してそこに向かう必要があるかどうか。下層に亜高木以下の広葉樹が育つ山であれば、高い確度で造成できることから、こちらをメインとすべきと考える。
  - ・ ここでは例を挙げたが、理想論ではなく、できる範囲の目標を決めていく必要があると考える。

- 質問（樋口委員）
  - ・ 保安林について、その取扱いをどうしたらよいのか。先日、企業の社有林に関する相談を受け、保安林ではあるが、太陽光発電をするという話を聞いた。
- 回答（横井会長）
  - ・ 保安林の種類によって規制が異なることから、取扱い方法も異なる。
- 意見（臼田委員）
  - ・ 水源涵養保安林のうち、指定された年代が古いものについては、洪水などの災害の発生をきっかけとしているものがあるため、要注意である。
- 意見（大村オブザーバー）
  - ・ 保安林における皆伐は許可制、間伐は届出制なので注意してほしい。
- 進行（横井会長）
  - ・ 基本計画について森林空間利用や教育の部分で考えがあれば聞かせてほしい。
- 回答（鈴木（禎）委員）
  - ・ 森林に関わる人として、プロを目指した一般の人も参入していけるような支援が欲しい。
- 意見（鈴木（辰）委員）
  - ・ 農林水産省では食料・農業・農村基本計画のような、地域づくりと一体となった農業政策があるようだが、林野庁ではまだ少ないようである。そこで、市には地域づくりを重視した森林施策をやっていただきたい。
  - ・ 具体的には、上からゾーニングを決めるのではなく、地域森づくり会議が、地域社会の持続化のために、売るところ、保全するところを決めていきたい。ここに森林環境譲与税を使ってほしい。
- 意見（赤堀委員）
  - ・ 農業政策も林業政策も補助の受け皿となる人は一緒であることから、地域づくりの政策を一体的に運営して、地域がその効果を感じられるようにしていただきたい。
- 意見（片桐副会長）
  - ・ 所有者不明の森林も増えている。こういう現象について、地域で受け止められるように、そういう人を除外して、森林管理を進めていけるような枠組みを考えてほしい。

以上